

MIL X インストールマニュアル

キヤノン IT ソリューションズ株式会社

エンジニアリングソリューション事業部

2014年4月1日

目次

1. MIL Xのインストール	2
1.1 インストール環境	2
1.2 インストールの前に	2
1.2.1 旧versionのアンインストール	2
1.2.2 注意事項	2
1.3 インストール手順	3
1.3.1 セットアップメニュー	3
1.3.2 インストールドライブの選択	3
1.3.3 使用許諾の確認	3
1.3.4 Default と Non-paged memory の設定	4
1.3.5 インストールの完了	5

1. MIL Xのインストール

MIL X/MIL X-Lite (以下、MIL Xと呼ぶ) のインストール手順についてご説明いたします。

1.1 インストール環境

MIL Xの使用には以下の環境が必要です。

OS (以下のいずれか)

- ・Microsoft Windows XP SP3 (32-bit)
- ・Microsoft Windows 7 SP1 (32/64-bit)
- ・Microsoft Windows 8 (32/64-bit)
- ・Microsoft Windows 8.1 (32/64-bit)
- ・Red Hat Enterprise Linux 6 (32/64-bit)
- ・Ubuntu 12.04 LTS (32/64-bit)

※Linux環境でMILを使用する場合、別パッケージのLinux用MILが必要です。

コンパイラ (以下のいずれか)

- ・Microsoft Visual C++ .NET 2008
- ・Microsoft Visual C++ .NET 2010
- ・Microsoft Visual C++ .NET 2012
- ・Microsoft Visual C# .NET 2008
- ・Microsoft Visual C# .NET 2010
- ・Microsoft Visual C# .NET 2012
- ・Microsoft Visual Basic .NET 2008
- ・Microsoft Visual Basic .NET 2010
- ・Microsoft Visual Basic .NET 2012
- ・GNU Compiler Collection

Matrox 社製画像入力ボード (必要に応じて)

本紙では、Solios-Cameralink ボードを使用してお説明いたします。他のボードをご使用の場合は、ボード名を読み替えてください。

1.2 インストールの前に

1.2.1 旧versionのアンインストール

旧バージョンのMILがインストールされている場合、そのアンインストールが必要です。コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から旧バージョンのMILをアンインストールしてください。

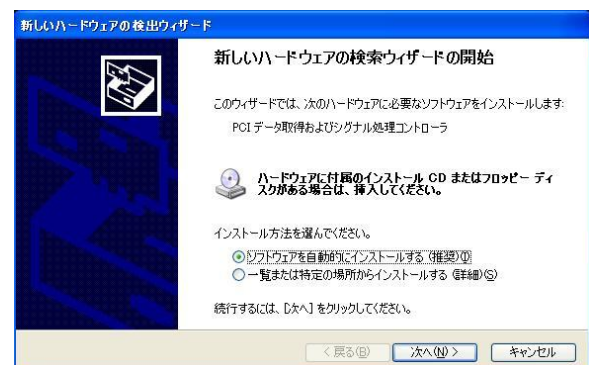
1.2.2 注意事項

・PCのユーザー名が全角文字や半角カタカナの場合、MILは正常に動作しません。ユーザー名をあらかじめ変更してください。

・インストールにはAdministrator 権限のPCユーザーアカウントが必要です。

・コンパイラは事前にインストールを済ませてください。

・画像入力ボードを使用する場合は事前にPCへ装着してください。装着してからPCを起動すると、下記のようなハードウェアドライバのインストールウィザードが表示されます。



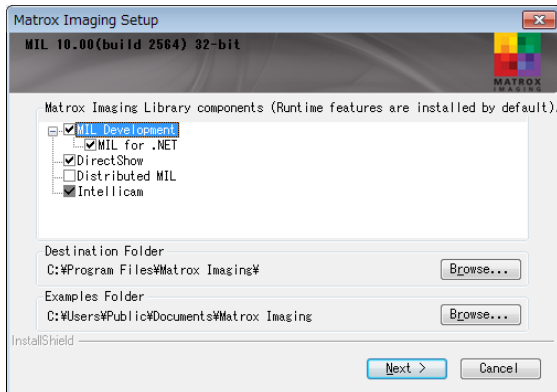
ここでは全てのインストールに対して「キャンセル」を選択してください。(MIL インストール後にハードウェアドライバは自動認識されます)

1.3 インストール手順

1.3.1 セットアップメニュー

インストールDVDをPCにセットすると、インストーラーが自動的に起動します。(もし自動的に起動しない場合はインストールDVD内のsetup.exeを実行してください)

インストールするコンポーネント、インストール先のフォルダが表示されます。



コンポーネント

開発用のMIL環境をインストールします。開発するアプリケーションや開発環境に応じて必要なものを選択してください。

- MIL Development
MILの開発用環境です。チェックしてください。
- MIL for .NET
MIL.NETを使用する場合はチェックしてください。
- DirectShow
チェックしないでください。
- Distributed MIL
Distributed MILを使用する場合はチェックしてください。
- Intellicam
映像の取り込みに必要なdcfファイルの作成・編集、取り込み確認などができるGUIツールです。チェックしてください。

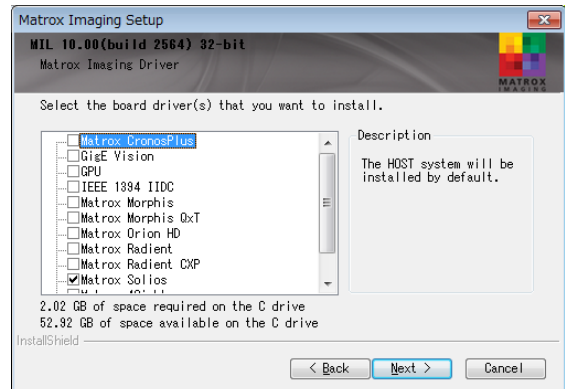
フォルダ情報

MIL本体とMILのサンプルプログラムがインストールされるフォルダが表示されます。デフォルトのままOKです。

全て設定した後に「Next」ボタンを押してください。

1.3.2 インストールドライバの選択

インストールする画像入力ボードのドライバの選択を行います。(複数選択可能)



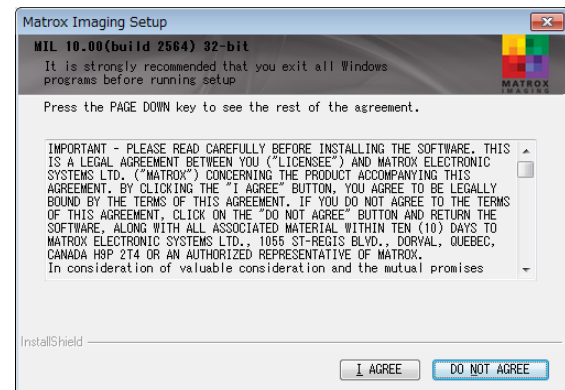
Solios-Cameralinkを使用する場合は、「Matrox Solios」を選択します。

必要なドライバを選択した後に「Next」ボタンを押してください。

1.3.3 使用許諾の確認

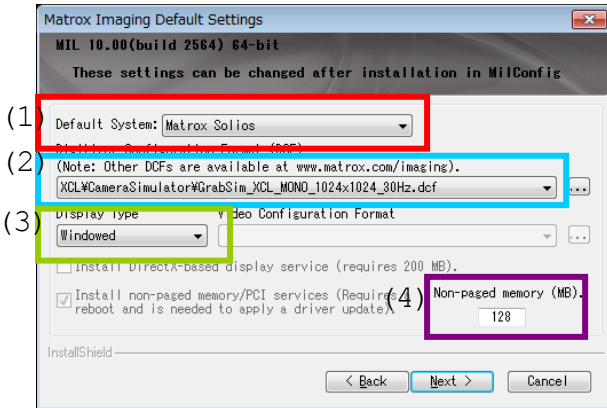
使用許諾に関する同意を求めてきます。

内容に問題が無ければ「I AGREE」ボタンを押してインストールを行います。



1.3.4 Default と Non-paged memory の設定

デフォルト設定と Non-paged memory の設定を行います。
これらの項目はインストール後に変更が可能ですので、不明な項目はデフォルトのままです。



(1) システムの選択

デフォルトで使用する画像ボードを選択します。
ここでは、Matrox Solios のみをインストールしているので Matrox Solios にしておきます。

(2) dcf ファイルの選択

デフォルトで使用する dcf ファイルを選択します。
接続するカメラに応じて必要なものを選択します。

(3) ディスプレイの選択

MIL 使用時の画像表示のデフォルト設定を選択します。

- ・ Windowed
使用している PC のデスクトップ上に表示します。
- ・ Auxiliary
デスクトップ上以外の場所に表示します。
このモードでは Video Configuration Format (vcf ファイル) の選択を行います。

(4) Non-paged memory の設定

Non-paged memory とは、OS が管理 (関与) しないメモリのことです。MIL では、画像・映像データのバッファとして Non-paged memory を使用することにより高速な処理を実現できます。Non-paged memory を設定すると、PC に搭載したメモリの一部を占有することになり、PC に搭載したメモリから Non-paged memory を引いたサイズが OS の管理するメモリとなります。そのため、Non-paged memory を設定する場合には、**OS が安定動作するためのメモリサイズは残すようにしてください。**

<Non-paged Memory の設定目安>

1 枚分の画像メモリサイズは

- ・ 640×480 8-bit モノクロカメラ → 1 枚 約 300KB
- ・ 640×480 8-bit カラーカメラ → 1 枚 約 1MB
- ・ 1024×1024 8-bit モノクロカメラ → 1 枚 約 1MB
- ・ 1024×1024 8-bit カラーカメラ → 1 枚 約 3MB

となります。

開発するアプリケーションに応じて、必要な枚数分の合計を設定してください。

通常は Non-paged memory も Temporary メモリとして利用されるため、少し大きめに設定されることをお勧めします。

全て設定した後に「Next」ボタンを押してください。
ムービーが流れ始め、インストールが開始されます。

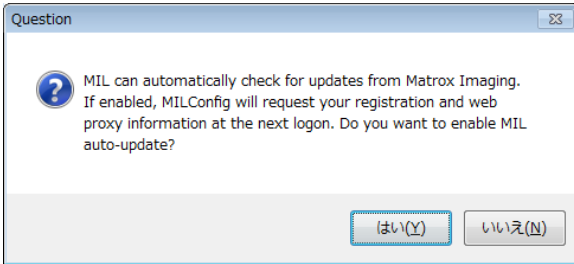


Windows によるインストールの確認ダイアログが表示された場合は「インストール」ボタンを押してください。



1.3.5 インストールの完了

MIL Config ツールを介して、MIL のパッチファイルなどをダウンロードできるようにするか選択するダイアログが表示されます。



必要であれば「はい」ボタンを押してください。

「はい」を選択した場合、MIL インストール後に MIL Config にて MIL メンテナンス契約情報の設定やネットワーク設定が必要です。

最後に、再起動を確認するメッセージが表示されます。” Yes～” を選択した後、「Finish」ボタンを押して MIL のインストーラーを終了します。

PC の再起動を行わないと Non-paged memory の設定が有効にならないため、必ず再起動してください。

